

### 第3回三木市中小企業振興審議会議事録

- 1 日時・場所 平成25年6月27日(木) 午後6時から午後8時  
市庁舎4階 特別会議室
- 2 出席者 (委員5名)  
佐竹会長、鈴木副会長、鶴目委員、牧委員、吉見委員  
(事務局6名)  
北井副市長、永尾産業環境部長、藤原商工課長、成瀬商工課主査、  
小山商工課主査、津村商工課主査
- 3 欠席者 浅野委員、井澤委員
- 4 会議の公開、非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 3人
- 6 開 会
- 7 議 事

会長	<p>今回は3人の委員さんに提案をいただきました。大枠の問題から細かい問題までディスカッションさせていただきました。今日も、順次よろしくお願ひします。</p>
副会長	<p>まず、金物関連事業に関してどうすべきかということですが、金物関連事業所が集積していることのメリットをどうやって、これからこれまでと違った形で生かしていくのかということの提案が5つあります。</p> <p>背景としては、三木で作っている金物の需要がそのままの形で大きくなりそうにないのではないかと判断しまして、新しいところに踏み込んでいかない限り、維持はできるかもしれないけれども、発展には結びつかないんじゃないか。</p> <p>そうすると、新たな試み、新たな技術、新たなマーケットが必要になるわけですが、そのためにどうするかということです。</p> <p>1つ目は、技術ですが、三木金物産業として新たな技術にチャレンジしていくのを市として支援できないか、個々の企業の技術継承ではなくて。</p> <p>2つ目は、ブランド構築です。</p>
会長	<p>技術継承について、1つは技術者の高齢化ですね。それと、若手の人材不足ですが、若手が外から入ってくることも若干みられるのですかね。外国の方もいらっしゃるのか。特殊な例ですが。</p>
事務局	<p>外から入ってこられる方は少ないです。</p>

会長	<p>本当はIターン、Uターンも含めて来ていただいたらいいのですが。ブランド構築については、特に消費者向けの海外戦略もやっているようで、まだまだ十分ではないようですが。</p>
副会長	<p>技術継承の話は、継承することが利益につながるような技術であれば、比較的放っておいても継承されていくのじゃないでしょうか。ここにはいろいろな事情はあると思いますが、大きな目で見ると、継承すべき技術がどれなのか、外から眺めて選択するのはとても難しい、中にはそれほど継承することを支援しなくてもいい技術もあるのではと思います。</p>
会長	<p>替刃鋸メーカーなどは、割と機械化されているんですね。もちろん手仕事で仕上げられるのかもしれませんが。技術継承と言いながら、比較的、設備投資で補っているところも結構あるんですね。</p> <p>個別の技能継承は必要がなくなってきているのかもしれない。</p>
副会長	<p>私もそういう趣旨でいっているのですが、替刃で革新的な技術を開発された企業が海外にも行かれているということですね。</p>
会長	<p>それが、競争力を強めていると。</p> <p>そういうチャレンジができるような意味での技術の発展ですね。</p>
副会長	<p>伝統工芸のようにならないようにしたいということです。</p> <p>3つ目に、メーカーがたくさんあり、卸もたくさんある状況ですので、メーカーと卸の個別の昔から続いてきた関係が、新たな技術、イノベーションのチャレンジを疎外しないような弾力化した形が欲しいなと思います。そういう意味では、三木金物産業、製造も卸も含めたネットワークが欲しい、意識も。あと、共同研究、これには技術も含まれますし、ニーズあるいはマーケティングに関する研究も一緒にネットワーク的にできれば。それから、新しいことにチャレンジするということは、なかなか何十年も伝統的にものを作ってきたところでは難しいとは思いますが、若手リーダーをいかに発奮させていくかですね。</p> <p>そういう新たなチャレンジ、開発の援助をするということが必要ではないかということです。</p> <p>次に、もっと広く見て、金物産業、工業あるいは観光、商業含めて三木の経済をどうしていこうかと、こんな取組ができるのじゃないかと、問題を持ち寄って、市に援助してもらいたいこと、自分たちとしてこういうことができるんじゃないかということ、コミュニケーションをとりあえる場があればいいなと。いまどきだけあるのかわかりませんが、非常に抽象的な提案ですけれども。</p>
会長	<p>産地内の企業と企業、人と人とのつながりを円滑にしないと、まとまりなくやっていたら衰退してしまう可能性が高いので、これは三木市全体として言えると思います。</p>
副会長	<p>従来から続いてきたネットワークを一旦はなれて、新たなネットワークを作ることが大事なんじゃないかと思います。</p>

会長	<p>私のさせていただいている仕事の中に、地域振興・地域再生などがありますが、その会議のメンバーは、自治会長、商工会長、校長先生がいてとお決まりのメンバーですが、これでは、あまり変えられない。どれだけ若い人を入れるかです。</p> <p>Iターン、Uターン、Jターンの人たちにも参加していただく。そんな組織の方が活性化しています。</p>
副会長	<p>形式的な参加じゃなくて、自発的な問題提起や連携のできる組織づくりが必要ですね。各業種とか地域の代表の方とか利益の代表として来ていただいている組織では、どこでもそういうことになると思いますが、こういう新たな取り組みがないと、従来のまま変化のない三木の経済が続いていくのではと思います。</p> <p>農業については、優位性のあるものを促進支援していくことです。</p>
会長	<p>農業は何がありましたか。</p>
事務局	<p>酒米山田錦、ブドウ、菊が有名です。また、黒豆も伸びています。</p>
副会長	<p>山田錦は、資料を見ると生産量が減っていますが、どういう理由でしょうか。</p>
事務局	<p>日本酒の需要が減っているのが大きな理由ですが、国の栽培制限もあります。</p>
副会長	<p>政策的なことは別として、日本酒が売れないとどうしようもないですね。</p> <p>金物も同じで大工さんの数が減っているので鉋や鑿が売れないのは当たり前なんですね。需要が変わらないのであれば、生産者の方が違う需要を探す以外にない。それをどうやって自主的な取り組みの中で探していけるだろうかという話ですね。</p>
会長	<p>関係ないかもしれませんが、今回アベノミクスに加わるといっていたのに加わらなかった1つの大きなところに、農地の企業所有があったのですが、あるいは農地転用の問題、むしろ農地は農地で残して山田錦などを作った方がいいのか、これは国の施策とも絡みますけれども、市がどう考えておられるかにもよります。業者さんは入っておられますか。</p>
事務局	<p>ブドウ園の跡地を、企業が借りて、人を雇って野菜を作って自社店舗に供給しています。</p>
委員 事務局	<p>酒造メーカーが栽培することはないですか。</p> <p>ないですね。村米制度と言いまして、酒造メーカーが一定地区の農家と契約栽培を行っており、これを崩すことはできないのです。</p>
委員	<p>最後に、小売りと人口増のことです。</p>
会長	<p>三田に比べて、三木は交通機関が少し不便、三田と三木はちょうど高度経済成長の時に数倍伸びた地域であったにも関わらず差がついてしまった。</p>

副会長	物理的にそんなに不利っていうのではないと思うのですが。
会長	大阪の三田、神戸の三木となったはずにも関わらず、神戸電鉄の問題とか、なんとなく神戸電鉄も三田に力をいれたような。JRが向こうはありますからね。
副会長	高速道路からのアクセス道路の問題とか、神鉄の問題とかありますけど。
会長	この前出ていたのが、ニュータウンの高齢化の問題。ちょうどニュータウンに入られた方が、ほぼ定年世代を迎えられて、学齢者を含めて子供がいない。これはどこの都市でもこういう問題を抱えているんですが、三田はまだここまで行っていないと思うんですね。
副会長	大きいですから、何年にもわたって開発されていますので、年齢層が偏らないですね。今から三木のどこかを開発してということが現実的かどうかわかりませんが、もったいないなと思いますね。
会長	神鉄が複線化できないという話も前回出ましたし、地下鉄が伸びないという話ですよね。西神があれば人が多いわけですから、そこで止まってしまうわけですよね。西神ニュータウンは結構人が集積していますからね。
副会長	以上でございます。
会長	ありがとうございました。他の委員の方、何かご意見ございませんか。
委員	需要が伸びないという前提で、新しいことを探すということが、私も必要だと思います。
会長	日本酒が、若干横ばいしているようなことを、この前、灘五郷で聞いたんですが。
事務局	外国での需要が伸びておりまして、輸出が増加傾向にあるということで横ばいを維持している状況です。北播磨で9月に外国からバイヤーを呼びまして、灘五郷と協力して商談会を開催するように県で予定されています。同じような形で金物についてもやりたいのですが、協力体制が取れないと県から聞きました。
委員	金物にしても、もうちょっと思い切って、業者ごとに効率化ということもあるんですが、これを集約していかないことには効率化も難しい、集約をいかに音頭を取るかというところです。
委員	人口では、神戸に近いところで、農業とか商業とかの各論ではなくてスタートは住みやすいこと、そこに人が集っていったら、物も流れてくるのだと思った時に、三木は非常にいい場所で、そこがもう少しアピール出来たら人が集ってくるのかなと思います。

委員	山田錦の話に戻るのですが、ガイアの夜明けの番組で、山田錦を使って、山陰の方の酒蔵さんだったかが、バルト三国で日本酒が入ってないところに広げていて、そこのワイン協会の会長さんを連れてきて、また、その人たちも来てもらってという話があって、山田錦の米で、このあたりで作っているところばかりを相手にするのではなくて、行政と日本各地の酒蔵との連携の発信元を三木市がされるとか、2次のところとの連携を図る必要があるのかなと思います。
事務局	新しくお酒を作ろうとなると、増作の必要がありますが、農地の問題、農家の人材の問題、後継者育成ですが、これが問題となってきます。
会長	あらゆる分野で後継者問題がボトルネックになってきますね。 ありがとうございました。それでは、次の委員さんお願いします。
委員	切り口として「モノ」から「コト」へで、金物そのものではなくてそれをつかって参加する、経験するそのようなところにスポットを当てた方がいいのではないかと思います。
会長	地域振興は物語でないといけない。本当にいいものをつくるにはストーリー性がないといけません。
委員	もう一つは、三木市さんにはよくそろっています。金物、農業観光地、歴史も含めて、1つの産業でどうこう言うのではなく、セットにし連携すればよいのではないのでしょうか。もう一つは、これで市民の方や事業者、行政同士、例えば小学校連携のようなものがが必要です。なぜかというとなんか阪神に非常に近い立地であり逆に近すぎて、かまえてでは来てくれません。
会長	グランフロント大阪はなぜ成功したか。たまたまなのか、わざわざなのか。梅田はたまたま通るところで、わざわざいくところではありません。三木までわざわざ来てもらうには、なにか魅力が必要です。ただ、三木までたまたま来ている人もいます。尼崎の会社の社長とゴルフの話をしました。いつも何時ごろ行って何時ごろまでおられますと聞くとシャワー浴びてすぐ帰るとおっしゃっていました。だから、たまたま来ている人にどうお金を落してもらうかという、ゴルフ場は無理なんですかね。ゴルフ場はみんな民間施設ですから、依頼をするわけにはいかないでしょうけれど、それはたまたま戦略です。わざわざ戦略は、今おっしゃったように、これだけ近いわけだからそんなに不便ではないはずですよ。
委員	高速インターチェンジのまわりとか、まわりの開発というのはいらないのですか。
事務局	それも考えていかなければならないと思います。三木東インターのエリアでしたら開発が可能かもしれません。グリーンピアもございますし、やはり大阪からの窓口であるのだから、その窓口機能をどうしていくのか大きな課題です。
会長	エキスポランドには今三井のアウトレットがあります。エキスポランドはある事故があり、なくなりました。三井アウトレットでは誰を対象にしているかとい

	<p>うと、ほとんど外国人です。</p> <p>インターが便利だと、例えば広い土地があったら、業者がのってきてくれる可能性もあります。結構遠い所にもあります、御殿場とか。あまり街中ではなく。車の便利なところにね。</p>
事務局	<p>ホースランドパークを計画したときにそのような計画も一時ありました。三田にアウトレットができてしまいました。</p>
会長	<p>三田と三木はルートが違うため、三田にあるものが三木にあってもおかしくはありません。でも今更というのものもあるかもしれませんが。この辺にはないですね。</p>
事務局	<p>今度三宮駅が改修されます。あれが三木市にどれだけ影響を及ぼすのかという話があります。</p>
会長	<p>大阪駅も京都駅も名古屋駅もそれなりに大きいですが、三宮は小さい。ほんとは神戸駅の話もありましたが、「Umie」は神戸駅から遠い。10分くらい歩かないといけません。三宮のコンセプトで三宮を降りた時に、神戸の象徴が見える。神戸の象徴は何かと言うと、六甲山とポートタワーであり、それを見えるような配置にするというのが大きなコンセプトです。どんな配置にするのかは分かりませんが、大阪駅みたいにある程度の高さの建物をつくり、駅そのものを上の方にします。</p>
事務局	<p>三木となにか連携してくれればいいのですが。</p>
副会長	<p>電車で三宮まで行こうとする人が、電車で三木まで、あるいは車で三木までというのは、なにか違うのではないのでしょうか。三木は、印象的には神戸阪神地区ではないっていう感覚を持ちすぎ、もたれすぎではないのでしょうか。もっと北や西の方からすれば、ほぼ神戸だという認識をもたれています。</p>
会長	<p>合併するべきだと言っているのではないですが、戦略的には神戸市三木区、神戸市小野区、エリアとするとだいぶイメージが変わってきます。ただそれをする、いわゆる三木の個別性が出ないかもしれません。神戸市三木区、神戸市小野区を含めてとすると、神戸の近くというので、人口は減らない戦略ができます。お客さんも西や北から寄れると思います。県の丹波県民局管内で、いつの間にか「篠山」と「丹波」しかなくなってしまうから、ほぼ一市になってしまう可能性はありますね。</p>
委員	<p>農業・観光・商店・金物4つのお題が出ていましたので、そちらのお話です。まず農業ですが、我々コープの活動からすると地産地消というのが環境面も含めてあります。</p>
会長	<p>地産地消は、地域活性化のひとつです。地産地消を一步進めて最近、地産都消というのがあります。田舎でつくって近隣の町に、だから三木で作ったものを神戸で売る。</p>

委員	<p>提案内容は、ひとつは産地と消費者です。消費者自体を産地に連れて行き知ってもらってはどうか。例えば7月に産地に子どもを連れしたり、実際に稲刈りしたり、そのようなものを企画されたらいいと思います。</p>
会長	<p>すごくいいと思います。子どもさんは喜びます。</p>
委員	<p>産地見学会、就学体験会、それから産地の人の工夫などを学習するとかです。小売事業者と行政間連携や他の学校との連携も得られると思います。小学校の遠足にブドウ狩りなどを入れていただくことはできないでしょうか。地元小売業者と地産地消ということで、一緒に産地計画や学習会、商品の販売につながればいいのではないかと思います。</p> <p>2009年に農地法が改正されました。小売事業者だけではありませんが、いろんなところが参入しています。</p>
会長	<p>これをもっと推進するのがアベノミックスのはずだったが止まってしまいました。6次産業化を進めるために製造業者が直接農地を購入してというのが今のところ止まっています。</p>
委員	<p>小売業者は、SPAの推進になりますし、改正リサイクル法の45パーセントを目標達成するには、こういう環境型農業を推進する。野菜の安定供給という意味ではいろいろ難しいですが。行政側からみると農地の紹介とかあっせん、雇用促進につながります。それから、観光ですが、ゴルフをする人のお土産というのは、やはりゴルフを目的としているのでなかなか難しいです。買い物はやはり女性であり、おじさんをターゲットにするのは絶対間違っています。</p> <p>女性にターゲットを絞った方が絶対良いと思います。</p>
会長	<p>CSAシステムを導入してはどうでしょうか。アメリカでは、それで地産地消させているのですが、いわゆる予約付きのお米券、農業券で、ここで今年つくったものを1年かけて買いますという予約です。消費者と契約するんです。当然この農地で作られたものが安心安全であって、自宅に安定供給できます。アメリカ人がどれだけ意識が高いかは分かりませんが、田舎で作られた綺麗な空気の中で作られたものが売れるみたいです。農産物が余らない。農産物だけでなく、牛乳や魚や肉やそういう一次産品に対して、そういう制度を導入できないでしょうか。これは、行政主体で検討されたらどうでしょうか。コープさんのような組織と一緒にやらないとできないでしょうが。市が独自に広告宣伝する、地元とタイアップして、淡路はやろうとしています。TPP対策にもなります。安かろうまざかろうでは、日本人はダメなんです。</p>
委員	<p>観光としては、近いからわざわざは考えません。青森にわざわざはあると思いますが、気軽に用意するパックや特に体験学習など学習と要素をいれるとよいと思います。中学生のトライアルウィークを受けつけていますが、中学生の感想や親からのお礼では、影響があったと喜んでもらえています。</p>

会長	防災センターは、小学生や中学生も行っているのでは。
事務局	震度7を体験するものとかもあり、年間で82万も来ています。
会長	それは食べさせないといけません。グリーンピアやホースランドにはレストランはありますか？
事務局	ホースランドにレストランはありますが、宿泊用のレストランです。グリーンピアもオープン当時は多かったが、今はだんだんと減少しています。
副会長	その80万は遠足が多いんじゃないですか。学校単位で。
事務局	一応日帰りの観光です。 ヒーズドームも含めて全体です。スポーツ系のイベントなどがありますので。防災センターは25万人ほどです。
委員	防災センターに観光にはきますか。
事務局	きます。防災センターに観光にくる大人が多いです。E-ディフェンスとか。
副会長	そういう人にはもっとお金を落していただきたいですね。
委員	特に金物づくりでは、道具の紹介ではなく、それを使ってつくることが重要です。夏休みの工作教室とかです。金物に興味を持ってほしいと言ってもできませんから、そこからできるものにも興味をもつていただかないといけません。 阪神間に絞ったらいいと思いますが、小学校、幼稚園、自治会、ご婦人。 できるかどうかはわからないが、パスポート券や地域通貨などはどうでしょうか。
会長	地域通貨は三木市としてやっているのですか？加東市は、地域通貨やっていますが。
事務局	地域通貨ではなく商業組合が商品券を長い間していましたが、回収の問題と使えるお店が少なくなかなかうまくいかないのが3年前くらいにやめました。地域通貨も宝塚のまねをして一時やろうかという話も出たが実際はやっていません。
会長	使えるところを増やさないと、使えるところが数店しかないで成り立ちません。
事務局	ある程度、商店がかたまって、商品が買えるようなお店がない限りなかなか巡回しないので難しいです。
委員	物販だけではなかなか難しいので、助け合いとか見守りなどとセットでないと



	<p>なかなかできないのではと思います。</p> <p>商店について、高齢者の見守りや宅配、ボランティアも広がっています。提案としては、地域通貨を安心なまちづくりのボランティア支援に使える、ついでに商店街で使える。京都みたいだったらいいのですが、なかなか難しいと思います。</p>
会長	<p>京都は小さい商店街でも地域通貨をよくつくっています。</p>
委員	<p>金物としては、伝統工芸品は皆同じですが、老舗化しかないかなと、ブランドや高級感や品質保証です。</p>
会長	<p>何回か申し上げていますが、安い品物だと絶対売れませんが、高級感を持たせてどうブランド化するのか。見た目と使い道、どこで使われているか、だれが使っているか。しかしその一方で、伝統文化を守りながら認知度を高めないとけない。三木でつくっている金物は中国で大量生産しているのとは違いますから。</p>
委員	<p>知っていただくというところで、観光でも金物をつかって何ができるということを知っていただくことです。</p>
会長	<p>人間国宝さんはいないのですか。</p>
事務局	<p>作り手は伝統工芸士はいます。今では18人です。 使い手ではいません。</p>
副会長	<p>金物ですが、ブランド化は大切ですが、今あるもののうち大切なものをしっかり残しましょうというのにはつながるでしょうが、今あるものをより大きくということには、なかなかつながらないんじゃないかなと思います。これはこれで大切なことで、お金をかける価値もあるんですが、そうすると、今ある大切なものを、これはというものを見極めることが大切で、全部残そうというのでは全体が大きくなれないと思います。 このままの状態をなんとか続けていこうとするのは厳しいと思います。</p> <p>観光にしても、商業にしても、三木独自の何かをあまり考えすぎなくてもいいんじゃないか、地理的にもですね。</p>
会長	<p>それでいくと、農業では、大消費地である阪神間が近い、三木のというより大きな枠組みの中でね。</p>
副会長	<p>そうなんです、例えば、神戸市に住んでいて三木でできた野菜を食べる、これも地産地消じゃないかとみんなが思えるような感覚でいいんじゃないかと。山の向こうの三木から来たのではなく、一つの地域、そういう意味でブランドを作っていくといいのではないかと思います。</p>
委員	<p>体験学習と観光というお話、そこに地域通貨と、農業の体験も金物の体験もできるでしょうし、例えばキザニアであったりとか、高校の修学旅行で農業専攻の方は農業体験をされて、工業専攻の方は工業を体験する、そういうこともでき</p>

	たり、そこをパッケージにして観光企画をすればいいと思います。
会長	業界組合とタイアップすればできるでしょうね。どれだけ儲かるかはべつとして、ブランド力は広がりますよ。その人たちが年を取ったら使うわけですから。
委員	一日大工さんになるとか。人気が出そうな気がしますね。
委員	地産地消とか、産地と消費者を結びつけるということでは、ぶどうとか黒豆など三木の産物を、お歳暮などで三木以外の方に送るのを推奨するなど、ブランド化を推進するのも手かなと思います。
会長	ありがとうございました。次の委員さんお願いします。
委員	金物関連製造技術の保護、伝承、魅力ある形で残っていくような仕組みづくりに、市を挙げてアピールできるような支援体制があれば後継の方も育っていくでしょう。
会長	三木市は、支援していると思いますがどうですか。
事務局	講習会とか伝承のために勉強されているところなどに支援をしています。
会長	やはり金物のまち三木ですから、金物が廃れると三木そのものが忘れられる。小野の算盤はニーズが少なく復活することはない。それに対して三木の金物はなくなる。
委員	神戸や大阪の企業が三木市でいろんなものを作るような流れが生まれ、「白鶴錦」のように「三木錦」のようなブランド化ができればIRになりますし、地元への雇用にもつながると思います。 次に、三木市は、風俗店がない、阪神間に近いし、自然災害に強い、気候もいい、昔からの金物産業もあり農業ありと。そんな中で防災公園も設置されて災害時の心配もないので、他市と比較してもとてもいい条件なので住むにもいいですし、例えば災害時の本社機能のバックアップができるということを大阪や神戸などの企業へもっとアピールすれば、住む人も増え、企業誘致も進むんじゃないでしょうか。
会長	絶対津波は来ませんからね。そのわりに阪神間に近い。ここまで津波が来たら破滅です。大阪や神戸はどうなるかわかりません。
事務局	南海大震災の津波の高さが約3メートル。加古川大堰が10メートルの高さがあるので、津波は来ません。
委員	「もの」と「こと」の発想ですが、三木市のホームページを見るとツイッターもされているようですが、若い方々の意見を聞いてもっと関心が集まるような情報発信をすればいいと思います。

会長	イベントは地元の人を呼ぶイベントと広く神戸市などから呼ぶイベントとそれぞれあるのですか。
事務局	<p>対象はイベントによって違います。例えば、金物まつりは全国からですが、金物まつりはすでに有名になっています。</p> <p>今年は、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映が決まり三木城跡及び付城跡・土塁が国の史跡指定を受けた年でもあるので、7月13日の竹中半兵衛の法要に合わせて「大河ドラマサミットin三木」をはじめ11月までにある程度のイベントを企画予定です。ただし、こういったものを外へ発信していくのが弱いです。</p>
会長	<p>伊勢は何百万人とお客さんが来ているが、宿泊客は20万人まで落ち込んでいた。それを復活させたのは、赤福が作ったおかげ横丁で、年間宿泊客は400万人になりました。それでも、二見の旅館街はゴーストタウンのままです。宿泊客のほとんどが鳥羽に泊まっているようです。</p> <p>伊勢神宮は20年ごとの遷宮ですが、今年、出雲大社は60年ぶりの遷宮で、ご縁横丁という地産地消の商業クラスターを作っています。</p> <p>遷宮というきっかけもありますが、いままでの10倍程度のお客さんが入っているようです。</p> <p>伊勢神宮や出雲大社のようなわかり易い中心地になるもの、象徴的なものはあるのですか。</p>
事務局	それはないんですね。
副会長	それを今から作るというのは無理だと思います。
会長	今から作れないかもしれないが、なんでもないものを名勝に仕立て上げることはできます。例えば、近畿タクシーの観光タクシーは、神戸のスイーツ店を名勝にした。三木市には何かないですか。
事務局	やはり三木でいうと三木城址をはじめ、グリーンピア三木やホースランド三木などになるでしょう。ただ、お城があろうとなかろうと歴史的な三木城址を核にしながら、アピールの手法を考える必要があります。
副会長	三木らしい三木発信のものでなくても、神戸、明石、加古川でやってもいいようなイベントを、いかに三木に取り入れるのかに力を入れたほうが、効果が大きいと思います。ただ、電車の便は悪いので、基本的には車で集まるようなイベントを考える必要があります。
事務局	金物まつりや三木の秋祭りは放っておいても人が集まってくるが、何かとセットにしないといけないと思います。これ以上集まり過ぎると危険になり、警備などで多大な費用がかかってきます。
会長	三木マラソンみたいな企画はあるのですか。

事務局	毎年3月に開催しているみっきいマラソンがあります。ただ、フルマラソンではなく10kmまでの大会で、公式の記録もないので、ABCマラソンのようなものに比べると弱いです。どちらかという、三木の皆さんに家族ぐるみで参加してもらおうような大会ですので、観光客向けではありません。
会長	フルマラソンにしてみるとというのは、ちょっと無理ですか。
事務局	警備面で多額の費用がかかりますので、費用対効果を考えないといけません。
会長	費用対効果が、案外やったらあるかもしれません。
副会長	立地条件がいいので、企業に如何に来てもらうかということが大事だと思います。三木に会社の一部を置くことのメリット、デメリットの把握をすることが大事だと思います。
委員	メリットとしては、やはり工業団地を造るということですが、それもひと昔であれば可能だったが、会社としては景気の問題であるとか、行政のバックアップなどの政策があって企業が来ます。今の状態ですと外国の企業を誘致するようになってくると思います。
会長	企業誘致はどんな感じですか。
事務局	ひょうご情報公園都市がありまして、現在15企業が入っています。
会長	それはIT系の企業が集積しているのですか。
事務局	もともと県の事業で始めましたが、バブルの影響で、方向性を途中であきらめて、どこでもいいようになりました。特に食料系が多くサーティーワンやコストコジャパン、ヤクルトが参入しています。
会長	ヤクルトにとってメリットは何ですか。
事務局	土地が安いことと、水道の補助です。これは他市にはないメリットです。
副会長	そういうメリットを個々の企業に提示し、企業誘致をするというのが今回のメインテーマかもしれないですね。
会長	ただ、大型誘致は参入しても地元と繋がりがなかったら、出るときもパツと出て行ってしまいうデメリットもあります。
事務局	誘致をするにしても、ひょうご情報公園都市については、5区画8haと面積が少ない。今は1区画あたりの面積が大きいものが人気です。

会長	県は平成30年まで、造成しないという方針です。
事務局	その中でも、情報公園都市は方針から外れています。
副会長	大々的に工業団地をつくるよりも、もう少し小規模な
会長	本当はクラスターにするのがいいのですが、医療産業都市のように、団地内で連携が組めるような集積がいいのですが。
副会長	いい条件があるということをもっと外に発信できるんじゃないかと思います
委員	黒田官兵衛は久々の全国区にもなるので、一人でも有名ですが、秀吉セットで、上司と部下みたいなサラリーマンを呼んでくるとか、そういう場をたくさん作る必要があると思います。 あと、ホームページは工夫する必要があります。
会長	物語的には舞台はどこになるのですか
事務局	いまNHKから聞いている段階では、だいたい8月くらいまでは姫路を中心に三木も関係してくる予定です。そのあとは九州の大分県から福岡になるでしょう。
会長	朝ドラと大河ドラマは大きなチャンスです。
委員	三木市は地震が少ないと聞いていますが、情報の集約でデータセンター的な企業が増えてくると思います。ただ、三木には土地がないということが課題ですが。企業でもやはり新しいことを考えるときは農業を考えていきますので、企業を農業に引っ張り込むような施策。 また、水田でバレーボールをするなど人を水田に連れて行くような施策であるとか、花畑や山田錦などと観光を融合させるような施策が考えられます。
事務局	そのような施策はありませんが、確かにひとつの切り口だと思います。
委員	水田をアートに活かすとか、土地を貸し出して週末田んぼ暮らしなどの取組もあると思います。
事務局	みずほ農園では、いろいろしていただいています。市民農園は何カ所かありますが、そこまでは出来ていません。
委員	市民農園の枠を超えて、外からも来ていただけるような取組もあればいいと思います。
事務局	あるところでは、遊休農地を活用し菜の花を植えて観光客を呼び込み、それが終わると漑き込んで緑肥にするという取組があります。

会長	<p>ありがとうございました。今日は3人の方にご発言をいただきました。これで6名の委員さんにご発言をいただきディスカッションをさせていただきました。</p> <p>今後のスケジュールですが、商業、金物、観光、農業4つの審議会を経て、7月中旬頃にそれらを集約する審議会を開き、4つの審議会に諮っていただいて、8月上旬に政策提言に結びつくような形でまとめさせていただきたいと思えます。</p> <p>作業については、議事録をまとめていただいて、ご発言いただいたご意見をそれぞれの審議会に報告いただきながら、私と事務局のやり取りでまとめさせていただきます。</p>
副会長	<p>三木の経済にとって大事なものは、4つの分野以外の分野が実は大事なのだという認識が必要だと思います。</p>
会長	<p>業種個別の施策は不可欠でしょうが、こだわると従来型の施策と変わらなくなりますので、もうちょっと広い視野でまとめたいと思えます。では、次回以降の日程を事務局からよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>第4回審議会は、7月22日(月)18:00、第5回審議会は、8月6日(火)17:00に開催します。よろしくお願いします。</p>

## 8 閉 会